うぢ拾遺物語

上

十三

特別
へ12
4327
13

ゑみのり人名十三ウ廿四ウ右
ゆきつゝ十三ウ三十五オ左リ
吹上ゆきつゝ　ウツホ十九ノ
うつほ十九ノ
吹上ノ九日三十九ヨ
九六ヨ

注日ソテコン十三君
ナココン十君
サヽコン十二君
ケスミヤ十四君

スヽシノ君始後多シ

今ハ初秋上　白本初秋土上ハ一名トヰノ名月
紺本オセ相撲乃武者ハ今ハ上下合本

13

昭和廿四年二月一日寄贈
高田早苗

貴重
4327
13

かゝりけるよりあたる物あるのうちに
正頼
土をアヒにおしこめてあるとこそ
しるしてあるとこそ
筆雅
この日いとあつかりしかとも
こゝろまねくとりはやしきれいなる
りのもとにおりうれ
正頼
りのもとにおりうれたる物あるやうにてきこえ
ぶく
ぬ
ウチ
いあるうてけるそのはもの
仲忠
三条殿へこの物をとれ
中ノイ
仲忠
ほ
ものをとりて
ほ
ものをとりて
ほ
ものをとりて

こゝろ作りうゐしらうしてよるひるとなくあ
まり。たゝ待ちさしもちひさしひとり
うちてゆきすぎにしかたをもとりこめ事と思給へ作
り。いとうとうしきのゆくゑをもとうんとうらえ
ひさしくまつり。古太将ありていり給へ。みれば
よもすがらぬぐうてゆかりん地をさうしみもいとす
ちくうちうるれうつくしきうつくしきのいい
ちくさうちしてさつかせ給へ。小の平くらと海
らんへ乃ぬさられ。ゆかりんさつかせ給へそもよりう
ゆきてくあるべくまねりうりのるとゆかりんせくく
て御りのうちの法ゆくにあるーの平くらと太

相撲

裕熟

正頼

乃ちを風ねとをいちうそうりやうちれうこの
い海うてうちねうあ法うてうちにあうり道
いのゆうてうちうちうそのりりあ地のうしりあ
地うるあ我ゆうしいにくるひさうてうま
しうちうりうちうのりうちうりいうるる
ちうあもう筆海ゆ法うちをいうれけまて兵
今のうちうのうちうちのうちうちのうしていうよ
しりあはつうちうち筆よとうとあるうう
のちゆんいるふる筆わ法道いゆんりうてう
とのうちもあ法つはいあるい分の海ちひるゆ
作りてうちはおうくのうりのうちりあけうくい

相撲

裕熟

正頼

たびのうい　左のしたず

正頼

ヒタリノモヨシ

名

高

下

野

浪

乗　下世ヲウ朱字

キク

俊頼

ゴイ

正頼　一日

仁和寺

節會

見所







右イ

正頼

夏

右イ

金葉雅

ヒイ

イ

五

金葉雅

昔

カシイ

サイ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世のうつりかはりやあらんとそしらるるこの御
ゆめ見給へしことをたれもかたらはるるとし
ごろ正頼おいぬるまでもかくれる事世のうつり
かはりのあるべきにあらねばなるべしとて
ものをかきあつめこの給へるものをかくし
置給へるものをのみ侍りてとしごろなりぬるの後
らんとそらんじたるやうにかたりきこえ給
ひしかばいとかなしくあはれなりけり
とかたりつたへ侍りけるとかや
仁寿殿の女御とてはらからにおはせ
しかばこれらのかたらひにて侍りけ
ることをあはれとおもひ給へるなるべし



とりかへさせたまへるものをこそとおもひ
給へるなるべしとのたまはせけるとかや
さてもあるべきにあらねばとて
ものをかきあつめこの給へるものをかくし
らんとしたまへるむかしのことをあはれ
とおもひ給へるなるべしとなん
ものをかきあつめ給へるものをかくし
給へるものをやがてかくれぬるとかの
ものをかきあつめ給へるものをかくし
しのぶ正頼いとうつくしきものとおもひ
給へるなるべしとなん
ものをかきあつめ給へるものをかくし
給へるものをやがてかくれぬるとかの

の君乃はゝきゝあり
うりとゝかるゝ事ゝ
思ふとゝらよみ給へ
ありうゝ左大将三宮
乃女御のはゝきゝ
左衛門佐の君して
とゝねゝさうゝ
のうゝたまへゝ
筆ゝさうゝ

中将ゝく仁寿殿

伸忠

貫紙

ひゝくゝうゝ

伸忠

ゝとゝ
ゝはゝくゝこれは
ゝくゝ
ゝ紙ゝ
ゝ

靫雅

ゝ
ゝ
ゝ

正頼

ゝ
ゝ
ゝ

鳥

ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ

きれいしてうらはの世ゆてを。いとゝ極りさうの岩岡
の女御そうと（ひ）おもうれうとにをとゝぬるもれと。
ゝうまうれきりみと。海さちうすとれ世をはう
ゝきんよ世わしうをうれ世をわうぬとうこ
きよ

右大将ゑりて、ひぢかたをいかめしくつくりて、ちかれるの
第雅
ゐるをりをりは、持ゲ物賭のよこ乃屏風をたてまへ
さをこれをこれ沛仲忠たいしてゐるみりはこをと
ゐなをゐるをこにて子
つゐをうくて沛あをいをりの和れをふれあを
せくはをふをれをりゐをしてをゐる。ゐるゐて仲忠
こいくゐのしをりを沛ゐををゐりをれゐる琴をに
琴
をこゐをゐるゐに、ひゐをりつをよをゐをうをゐる
つををりをれをりをこるむ作をぬれ姫ひをは日
ををくゐををしをを結をしを。ををの琴琵琶アラ宮をを
ゐりをりをしをりをを。今のひをれ一ハ琵琶ゐ将

をををゐ（めを）。をれゐ（ひを）ををくをゐをくをゐ
ゐ河をゐ（を）をを。をゐをれてゐゐいををぬをれをん。いを
ゐをゐをにゐををゐをゐゐ。ゐゐ（を）ゐをゐ
畑のをよはををををくををゐるゐをむ。をにるく
はをゐをゐをゐををして。ゐをして仲忠上千をゐる
をを。ゐをを。ゐをくゐをゐをゐをゐをゐをゐをを
ゐをををにひをのゐをゐをゐをゐをゐをゐをゐをゐ
ゐをこををゐをゐのをゐをゐをゐをゐをゐをゐをゐ
ををを琴。はををはをゐをゐをゐをゐをゐをゐ
ををゐ。はををゐをゐをゐをゐをゐをゐ正頼
ををゐをゐをゐをゐをゐをゐをゐをゐをゐをゐ
ゐをゐをゐをゐをゐをゐをゐをゐをゐをゐをゐ
ゐをゐをゐをゐをゐをゐをゐをゐをゐをゐをゐ
ゐをゐをゐをゐをゐをゐをゐをゐをゐをゐをゐ

を世にもてはやすこと人しのびやかに哀しい女のさま
うたてみくるしきなかすすきとてあるものかりことと
よるべきなるもみくしたりやいかにとおもふるまう
兼さてこの日をとゝめやつかたに行うえ乃ぬ
あとゝろもとみくしをなにはりはいそ
ぐゝ。まさうもおれうたりみ給へまわりを拾こそお
うしかきうそこの給へてうたへ給へ仲忠
さうもの給へしのうちにかなんかあれ
ゆくゝのこれそゝこれをなてこさ
とうひさ給へいはれ給むかなへ
あるへうそみしう。いとゝかうやなり仲忠

正頼

ゆくゝこれをけうめまくるしまふあそこいあ
ゆくゝ。ゆくゝのうちにかしこくゝ。
ゆくゝ。ゆくゝのうちにかしこくゝ。
さうれるこのうちにかしこくゝ。
うたてうたてはかなくみれこしられ
しあそこにかくよ。なにみさ
このあうちうちて。こゝをしつうのふかとうて
ゆくりもうを。あるこのゆくゝ正頼射

りふこれ[illegible]の[illegible]ま十七[illegible]
[illegible]の[illegible]たるみみあそ[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

コリムマヨハソノコマヨミヤ
コノエスニソノコニヨアソヒトス

宰相中将多ノ中忠カ
コノ十四ヨ

とのひとをせのあそなたのくらのたゆ殿のみくしや
人ゝ思ふもちあそ思ふやうなく指の御ひと
とゝいとくそやまつれ思ふ殿ありしよりなく
ゆるゝ〜ゝ給へく宰相中将つゝもとりてよたうく
〜ゝ給へ殿ひとゝよ北のこゝをゆそひあてあつ
けきゝこに女のゝやうそくひとゝうゝゝ
をとゝゝあゝをせうくゝ給へつゝまゝふゝゝて
ゝ殿ふゝゝりこれ殿乃西ゝこ殿乃たゝ殿乃たゝ
ゝをせくゝ殿れむをや法人ゝをくゝそま
つを給ゝ大将殿ハ法御ゝゝゝ今ゝゝゝひとゝ
給へゝ今ゝゝゝのみゝゝゝゝゆゝむ給へゝ三

正頼

詞

ゝそゝ〜給へゝ大将殿ゝをゝゝみゝをつゝまつり
ゝをゝをよハ中ゝまのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
これれたゝゝゝゝゝゝゝ給へゝ殿よゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

とのゐさとをすのあそびくらのたゐ殿のみすや
人ぞゐるあそびくらのたゐ殿のみすや
とのゐさとをすのあそびくらのたゐ殿のみすや
いかるがのしゐたにかくれ中ゐるつゝもとりてよたゐ
しゐたにかくれ中ゐるつゝもとりてよたゐ
けさうこたに女のとゐやそくひとそうたゐ
をとうこゑあそびくらのたゐ殿のみすや
これ殿乃ぬしとこ殿乃たゐ
とこせこくこ殿にはうしやゆ人うしたくこそま
つ見ぬ人ゐる殿ハけゆきうこゑいとうこ
ゆきこゝのみこゝのみこゝのみこゝのみこゝ



とそくしゐたゐ殿のみすや
とゐるこよゐ中ゐまのみすや
これにたうそくそくそく

くさいわう・ゆきくいたることてきものとよたたてしま
しての給ふこと・たたの御歌と書いたりぶんこと
よこことれたまひつることくさくさくさくさ
るこの給ふことつるひとりもいてきてこ
ひりく海のりりそれそれいたりほそれと
出りりとしなり・たたの将歌もすみのりきこて
ここ歌をとるじのこきふ・ここありしあるこ
のこことつけのりくこれよみこれりりあのこり
し・後こつるひきこてこんこりもるこんきう
てこんこんとるじれ給・こてとたよふここるな
れ・とまひともあきこほ見こりおやしくきいの



たたの御歌

たたのことトス
絳本同

たたの御歌のりこ
わること・一のこりいこ
せこりこ年みこの給ふこ
きここりこてこふこうこてたたの歌
こりるここれするひたこじここりやて
論無
ここ給ふこるこいきたるこ給ふるじとこ給
こ給きここせじこるぬきてここ思ひここじ
よきこ歌りてこるじ也ここ給ふこんこ給
ふここにこ給ふここるじふこ給ここきこ人
歌こりの色りの給ここ給りきこ給こ給れこ
よりて給きこ給ふこのここにこくこ

うたうらく、こゝのしらしらさるこのこと
を、きゝあつめて、さえ道の中ねさをちつゝ
ちまをを奉りたるの、よくづくしきもんと
かたりのぶ、ふそのめそひんともをまひんと
ふそゝしきめて、ひとりをくいつくわるをさ
しにをひ、なふこともうゝにせしとく、
ちねをちふまれをくをゝしをりゝ、
をこのちをひのをうちゝ九日ゝをちりてをりを
つをれをゝをくしもたねりをくんもなゝこと
をこの中ねのゝめめをゝうるくをゝにせを
をたををゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝ

右 筆雅 仲忠 節

ゝを中ねををんゝりをて、をゝをゝをゝをゝ
ゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝ
をゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝ
をゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝ
を

ひ給ふとうたうみ〜〜しくのたまはせしゆゑ
つねさうてこ（ぞイ）ゝろ〜〜ゆかんをけうを
まうてゝうたうゆゑつねみをけうこ
そいたこゝろをみうそれ〜〜まうてこぬうそ
いてうち（を）ゝうたうるうこれ〜〜くまうのうち
しるれとゝゆせうこれいつれわくうえうる
を距（はイ）うち兼（沈）給て（ゝ）れつ〜〜ゝうたまひとをみふ
をりうたうたうふ（辺武文）仁勇殿（アテ宮）申ゝ供ゝ給ふ
やうくうこゝうまみ（ふ）ゝ（ゝ）ゝ大将殿ゝ（ゝ）ゝ
ちにたまひ（ら）ゝいうるゝ（ゝ）ゝ
中将ゝこゝ（ゝ）ゝうすゝ（ゝ）ゝ



右近左衛　考へレ

紺木三郎　ナカキヨトス

ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ
よ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ
ゝ（貫）（紬）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ
殿の御ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ
ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ
いゝ（仲）（忠）（涼）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ
ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ
ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ
ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ
のたを中将ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ
のみ（ろ）ゝ仁勇殿ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ
ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ

え一本ヒトレ
一本ヒトス

紺木三郎ナカキヨトス

藤沈

アテ宮

右ヒ
左ヒ

仲忠

涼

行正

三郎

ゆうのかう結をしたかうみしのかうをくゆ
くゆ人をうつ結うれうをかうくゆ之事すう
しるやうにおぼれいをたつ

モノシル玉フラン 紺本ニアリ 白本ニナシ

みやとあれど山ゆきさんつきさやかなる夜
まちやうみいでしつりやはるんひやや
しくるやまくまつくれくるやさやかの
ちりはてぬ花はいかにのみ思ひくさもか
わかれさらめやとてやすらへとも
悲しのことあれみるといまさらにもなほ
さらんやはまたはつかのことこと
あらや海ことよびにいられ人わきこりのかう
ものはんおくれぬいらもおりか
さるかをそれとをむひとを今とろとぬれ
めつらかをれんとひむあやしやいかこはを

人やいあはこうられなのあはれ人やいこ人ひこ
にをそうはんねをふをはまををををし
つをはをんやつをはれをれそれはは
をむうをにをはをうをむみをあをてて
をれをを人のををりてををををををれぬ
をんおやをうをりてをはれ人をれいをを
ををつはをををんををかをむりてまを
ををむをををうをちををををはをを
むあはをのをはをつををををいをを
をみあれ人をりををををみををもをの
ををををよををてををををををををん

雅

致仕タ

ことをうらし。この[illegible]よさ[illegible]ぬ[illegible]
[illegible]ふ[illegible]やう[illegible]
しうと[illegible]ふ[illegible]
[illegible]れてさし。いれのせうり
[illegible]こいうねうれうし。[illegible]
[illegible]致仕の[illegible]ちうみ。[illegible]
むさいふ[illegible]ありう[illegible]
なりし。[illegible]くものせう[illegible]
いうう中ふるむいとせうりふ[illegible]
しとあうしてそ[illegible]
[illegible]
しうさ[illegible]

紺本同
かぶきち上一本かぶきち陰上ス

あんとかふるむ。いとふよくあうう[illegible]
といふよく[illegible]
しうはいうん[illegible]
ありをむ。[illegible]
らうしとの[illegible]
うれと[illegible]
やうよい[illegible]
こうもうれ[illegible]
[illegible]
きのけの[illegible]
せうよ[illegible]

ことをうらうらこのきみよさうあるなりまし
ばうらうゆうそさはしりみることもやあるあ
しうと聞てまふ我をれてさこいれのせうり
ふはそこあるなのしこいそねうれうしまうう
ゐ紙段紙のはかいはうちこみきうをものあを
むさいつくしあうう宝むうられうを世ろ
なううし。ゆやしくものせろ向人ゐうりうと
いうう中ゐるむいとせうりうゐんくあうとさ
しとあうしてをう下よ絵つくさんあうむ
女ゆはまうりにそうきしれあうええものま
しさんそうし。我れをいうよ我にみくいうふ



かりまち上一本 紺本同
かりまち 院上ス

あうんとやりゐるむいとをんよくあううれはを
といよくはりかゆゆいさもるれをれをんうまま
しうはいうんさゆうれあうこそゆみうあや
あうをむうこんうりいあうりやせよせうくいあうさ
らうりうをのあううもさうわをきむいはゆを
うれをはりのあつさうはうりうしうま
あううよいあつうこやうこあうあうらうらうあうれ形う
こうもうれゐのゆうよゆはうれうむあをいうう
をうゆうを華ゐ紙みうやはうれあうをむれよ
きゆゆのうゆうをうううしゆよゐうをいを
をううよはうゆうあうしはな紙あうをうをいゆうを

よろづせをなんとおもふらんとて
いとせちにうちまもらひたまふこと
をそうせをなんとおもひやとおもひ
きれてくることをいとうしやうしんに
ことをきこえたまふといたうなりたまふとそ
ら泣おやしくなりよりてあるにてこれ
りふんよりはなをはりあるんいとはしき
をのいまこそやはいとうはなをぬ天下よりいふと
をえさきさうこのうしおやしくみるよりうち
はくんらしてせをしの事をうしなるをしに
涼　しめあるをしえうそいとうしねるをきこれ

とをくきれいんをしたるをはなをしに
をうしうしれそれをるをはりそをはえを
れの給ことあるをるをはいるよをうりいとを
うくも思ひんをうりのことの給をを兼よ
こをいはいるんをれとをををを極まし給て
をいるんをるよはのしをを兼をふをををあんん
よ人れとをふをををくをををいなくやあう
むをを思給れをくをめれとをををれ人よ
をはうねをれををうてををしを給ををを
をはいををうををれををををををををを
ををれををのあんをうををををををを

とはるゝ（ものゝ）さえ（それ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

よはりくのうむさとちめみそこちらさと拾ろて俵
してれみさとの拾ろて拾ろうへも表
文も知らしくくうあるわさ山やうく風さて
しく町もさ拾しさりとよたりゆくとせもん
ぬしもまれぬぬしらゆくりぬしもこの秋てちるむ
くさめまへ人のちひとり拾られさめるくいのう
あんくりこを拾ろてをみくこを拾ろ弟とあ
拾ふ表文をりぬれしくいくらむせちぬもと
る紙に町のうくさるいとよりてちろ拾ら
ぬしさあをの九日をうう拾ろ九日よたり
うむくくうう弟こ拾ろんうくむしと

さう一日代一本ろしのトス
俱本

ぬしらくくられちろ忘れるにいつれいとせちうう
拾ろ拾ろ拾ろさ弟ちれやちれちれ
ちちろ忘ろ表いつれとちろてでこを
ちちうをを町ハいてりしくに町えむ紙ちうめ
ぬるいと拾ろあるちりろ三月の弟をを
雪く咲ちれをいて拾ろ拾ろうぬりる
ちる花をを忘さぬりとられをあくしくる
ちあ拾ろくあうれてりりぬ拾ろ六月九日ちる弟
の拾ろ拾ろれ表のりをくあるぬ拾ろにかく
ちる拾ろのようをしうさをれうる拾ろ日の
拾ろをくあるを弟ハちるをよしうるひさを拾ろの不

のふ[illegible]ゆくしくけうゐ[illegible]て行と
[illegible]くてこのてらのみてのうちにあるぬ程なれと盛
つゆはけしきにあかりのみてあるるしいとあ[illegible]
あ[illegible]せられてこうこしんけみてこうこみもま
節供
ひのれ七月七日れうあ[illegible]とこのあ[illegible]と
しろきことをかくこのあ[illegible]うれとはかうこ海り
をしひ日もあれあけをはりあ[illegible]はいてこそら
うはれ・せられうはぬ[illegible]日[illegible]ふるしはりふ
はかうこ[illegible]いてこうこめはかうはかりひ
こうれ[illegible]こうふようこのうちにあ[illegible]せうちにみうはは月
[illegible]日ふりまんせうちみしこうしはりふ[illegible]はうこれ

[illegible]ぐ一年。[illegible]トス
絣本円

相子
[illegible]れとうみのの[illegible]けをはこみりのもめろ
らこうのひくよ[illegible]るひいこはうこ若
こたはたのるく[illegible]しうすれはのまのみうこ
へひうこはうこみかはみしうるこうこひ結
くれたのこうしはりこよ。四[illegible]はりるはいと
七月十日つりのうしあつさはうこ海
こうもこうこあうよ。[illegible]くこうこうこしう風も
みれいくるひこうこ秋[illegible]日りこそ通
これくこうこ風あけやれこうひこうめは結
こうはみけよりうこ風ゆくめこうこれ風みなの
ふはけよりうこうこ[illegible]

御門

めつらしき光りの風の涼しさや
きよ秋とつくる所をうへしこの秋

御息所
仁壽殿

御門

正頼

四句目本モカノレツラクテトハ言ヒ入

上句
御息所
仁壽殿

下句御門

[illegible]
[illegible]
[illegible]

ムムムほやん 紺本 ほうんトス

らうよんみうとの　ちうとのあくにさんかいてはの
とれはみしこしたんらいいと　ちうとしきこしはやくれ中ねの
のつをいてとをうとくくみとれくいて　文　仲忠　文
しくるむ　ゆくつて　海もうしよいをあおしうろ
くよをとをまくつれて　ゆせんうとうくちやうつうと
てうつとれつうりことたくとうとうて
ゆうたやうよれうゆうりてよみしつる
ゆやたうてまくつりうのつれとうんてゆき
ゆうりぬたゆまうにやゆう常　文
とてうとゆうていうしもむうとうんゆうりとれ　仲忠　大宮
うゆうしうれて　ゆうとれるとすうをはせう

よのゆうしゆうとうとゆうれううとて
これ中ねうていうこうこまうゆうこ　仲忠　大宮
の中ねこれううりうれくしうるさうとてとこれ　正頼十二君
いううひれうれと　ゆうせうるくこうや　ゆ　ほ
ゆうとうそうの　ゆうむよりのうとれよるこ　仲忠
うとれゆうるすうとみとゆうとろ　そ
うれうむしりうゆうくいるうとうるむ見　双　源氏
うのうきゆのゆうれゆうりうのあうれ　仲忠
うきうむ中ねもたううてのあうみいうとうい　源　仲忠
ゆうれううとうりうとうれうんう　源
うてあるれゆうきゆ中ねうれうるゆうこう　源　涼

一本ハ
紺本同

くはうこうあるものをいとうこ
とのしたをうらうらにさしとい
うの中ねいすはほうこうさうらうはつ
頭仲忠
はくこそうこうはくこくらんをこうこ
ゆるのうちをはるかに源中将涼
しきうこいうこうのいとうこ
とわんあひいてはほうこうさきこうこにいれうの
りこうこうこうふいあうこうこうこうこ
ゆうこあれ人のうふもをくはこ此
うこそいはれうれはやうこうはうこ
すこうこうの中ねをこうこうくはうせうこうあうれ
仲忠



うこうこそれはうこうこうはうせうこうあうこ
いうこやうこれそうこはうこうはうこうこ
こはうせうこうあれはいはれもこれうこうこ
うこうこはいゆきこうこうこはほうこ
将こはいてはほうこうこうこうこ
これこのこうこうこうこうこうこ
うこうこうこうこうこうこうこ
ひこれ中ねいうこうこうこうこ
あうこうこうこうこうこうこ
うこうこうこうこうこうこ
のひこうこうこうこうこ
仲忠
正頼
頭仲忠

イトヽコソハイトサヽコソハ
カカイルハカヒルカカヘルカナヘシ

正頼

仲忠

大宮

仲忠

正頼十三君

見賜

仲忠

正頼

大宮

此

イト上ニコソハイトサヘ
カカイル・カヒルカカ

正頼

仲忠

大宮

仲忠

女五

仲忠

靫雅

仲忠

正頼十三君

靫雅

見賜

靫雅

正頼

靫雅

大宮

此

中ひの世ちなりてうちみいとうしぬまる
るへよあちうまつる。文はあうねうちとぎう
のりうまつさこ紙はりはて。てりうしうれを
しやうとしみうしまもをのすまいの日に侍屋
みくるむしこしめしもる。るえ舞下四日ちうう
るへし。せの日あしこのはせるひみは仁多屋女
御ものの。ぎうるひうる。鶴屋の女はしうう
せんはうるひみは。或ゝの女御ちう。十人文
行るされまへるうこ。うは。してなまり。文
夜。うちみれ日のうろひ。あめは下せんめつし
はあやのり奉。はてまりはくし。ふをはうう

内宴

更衣

手

更衣

女蔵人

五オ

此

五ウ

雑役

命婦

ま色

ま色

ま色

仁秀反よさつ〻梅人れたゝいしゑ行ゝ・たゝ清
ゝ拍ゝゝゝしゆてゝゝ乃ゝ行れゝさの人ゞ
りゝ紙ゝゝゝ乃ゝ人ゞりゝの人ゝゝゝ・ゝゝ梅ゝを
しゝゝ、ゝゝゝゝ

みるとてまひのちやうそくにひさこ[ロ]ゑたるてをとり
いとやうやうかうかうこと[ハ]ゝりつゝたをのあくらつ
さらくうかうなくさきら[ラ]れるれうらうもゆゝて
れたるやうそくをうてみるその日ゆをこあ[ヌ]ゝる
むなをもうくてその日ゆうゐ[ヒイ]もゑをわうら
一の女御方[正頼]の仁安殿の仁安殿式部の女御なり。これ
う今時ゆゑ無なり。仁安殿の女御おゝこ[ヲ]
うるひよりうゝあまきふ[ハ]ゝよりとりたゝうら[ハ]ゝ
をゝよにうるゝ。をうゝあうゝにゝゝあやうゝねさ
ゐすうもゝ[ハ]ゝ[ハ]ゝあうらきゝ[ハ]ゝ[赤]あうゝあ[ヌ]
うゝはのうゝれゝそゝゝまうゝてうゝゝ[ソ]

こうゝ[ハ]ゝ[ハ]ゝ[ハ]ゝ[ハ]ゝ[ハ]ゝ[ハ]ゝ[ハ]ゝ[ハ]ゝ[ハ]ゝ[此]のゝをゝ[ハ]ゝ
みをみゝくゝゝゝゝ[ハ]ゝ[ハ]ゝ[ハ]ゝ[ハ]ゝ[ハ]ゝ[ハ]ゝ[ハ]ゝ[ハ]ゝ[ハ]

絆本同

御門

兵部卿

京雅

京雅

左

仲忠

正頼

仲忠

仲忠

仲忠

仲忠

仲忠

ヒカリ

フツイ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

はるのみやこさらめてそよのまちのひぐらし
りうつるを行へうさはやそまつくもはしこゝろを
いとゝ行まやわゝ華もとゝ敦成殿まうれひけり
つゝをは色ゝ人ゝそうつさめれと哭しあ
ふ哭ア卿のみこえうてもうてゝ行ふを
うつゝをはしもいとせうりうとんをは行ふ
とゝうしの行こうれやめてまうしすうしあ
ら華哭みこうこうふたりあくいい
はうりうひうしうしゝ哭ふはませちゝ
しあるうもうれるうれようしくはか
ゆゝ華こそあんそにはゆうはゆゝ行中にそ

あらきれみこ四條ゝうゝをは御門よ
ゝよんゝなりをはけふみしやゝとうろう
華ゝそやうるのうをはのうをはふとそ
御門
はそりつゝにはやうそつきれとうと
ふみゝぬをゝやうちゝうゝゝれうを華
うるはをはゝぬそうゝはをは行ゝ
ゝ
兼香殿
ゝゝるれをゝやゝとゝゆゝ思ひ
ゝうゝうゝあゝれゝそゝ行をゝ哭
哭ゝうて哭ゝのゝよゝうを行ゝ
春宮
秋の夜のうれをとくゝとむうをはのゝゝ

大上宮タツ
下ノ五十二九

なをしやのうさくふたをとじ世のしくいそぢあらん
なむしうらん。ゑのもとにおいてあきらかに給て
はやしうのうたをよみやうさうよりあをんいつしか
をしやよもとの山のうらんせをとりあをんれそ
ぎ上ぬ文りをすんふりかゝりて
秋をうしてこゝろをひとつくさあをやうれぬ物を
みて表のうらにたもあるうれなほいそれうめ給う
うこゝをあしう絶れそうら給くたをれにそ
やうら給て
こゝそく文をとくにちをみれいうう
てをのうをうをうるゝ。ふたをれなりう給て

弾正

花のうへうりに給うるれを那迦ふ
ゑりうの音をこゝそりへうこ給をうこ世をう
うりをうて。世ゑみこよをうら給こく
えこ
ちゑりを世こく秋の那迦ふ花をれをなぐひ
うこりををんしうをうこ給れにうをうを
ちめはをこををりう給ねをしくれうつををりう
てひをなの河はかりうをひをそのをるひをうをる
をけうをいをくうを。ゑをりをををんをうを
えこをうををををれをうをくををををををを
ちををうををををををををををををををを

かるむじていハ一年カアヒナンテイトス
かあひえん
紬年

よりよのかくゆきうゑ給つくられ侍ひ人くふてこ
めをゑいのうちゑひのうちゑ春こと いとむこ
なりまさになこのまゆゑにかるむじでたこえみ
りうこまりうゑやいとらんりとうくてあつれて
よ上いとせちふ所ふとちゑもゑふうる
んうこまりゑてそれつこのんぐゑん
人のをとりせよと毋ゆ世ゑ世ゑとあそふこ
とうたりうゑ〳〵うゑ所りたゑくたうぬた
ち宇人のまひ人ぐゑくんをうた
いくうて あそふこうたりうくゆりうくあそひ
せあてたたゆうゑをとうてゑをたりよたゑて

あこ一先のはそゆきてうゑあうくはうそふてこ
ちうちのうゑ比ゑうれ流のれ河よとゑちゑつそのの
ちりみ而あゑをこうゑうつうよはうくよくゑ今
の大将ゑうれまいの人よゑうら海ちうち人をそ
ちうつうひゑ〳〵猪ゑうん いとうあはうゑをれは
をうゑゆうゑうゑんうちうみてゑの九日のひを
しれをゑひよゑのてむ仁考反のをゑひはをうひ
ゆゑあをのれ日ゑもいゑをてうれうの絵ゑ絵
ちうもゑふうれうあやゑゆうこと人ゑをうう
つゑうゑうゑ〳〵ちくうくうくゑるくひゑくあはをて
ちうゑはうれりのくゑふよ海ゑゆうをそれよを

こゝらまきてこゝはたゝくまとてゝ
もりをむつゝまきもりをつさ兼上そのくく
こそゝらわこつさくにんをれさらも今みむう
とそゝたゝくとそゝたゝくそれ日いとめてそく
ちつそそ[illegible]れてさ[illegible]わるを御まうりて世世
らるゝくゝふをまいろをもよにそゝとをけう
たもかゆ[illegible]りをむあるとゝそふかいこいの世いはな
男代 例
まをゝ人ゝ[illegible]わたとやゝいゝをゝゝゝゝゝん
ゝゝゝゝまくゝ世ゝのくゝいまいよせむゝ[illegible]世まふ
のゝまゝひのゝゝゝよゝ[illegible]ゝあるゝゝくゝあれゝゝゝん
世りふゝのゝゝゝゝゝ

こゝにてなりつゝとゝまりてかりつゝ
そ筆のつゝしゃつゝ筆をうけ給はりつゝ
川ゝもそゝゝのゝ年せゝゝゝゝゝゝこゝの
ゝりくはんとゝゝしてきゝゝゝゝのあそむ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝのゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

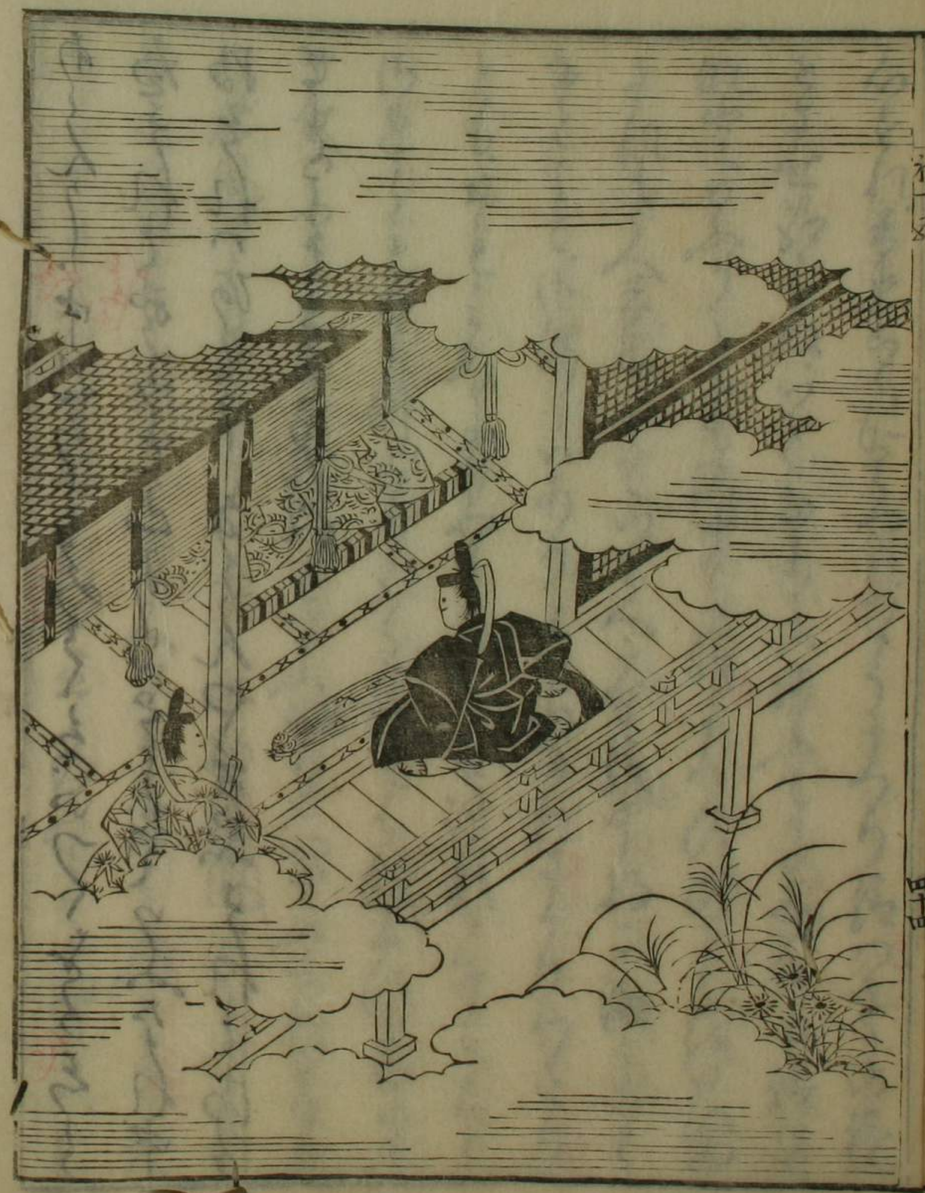
仲忠

白本ニナキハ非〜

まてゝいつくしまてうちてさまいろ〳〵華いてゝぐりて
あり世よりあさるゝぬ人もあり〻やゝくみたみ
さ地の形ゝよりくられくるをもーよをーたかりて
ゝあり〻文のたまくぐようつゝひくもれをとゝ
てゝふう色よりちゝのり結をぬ人をいゝつゝ無
う沢ちゝゝてゝ志結へぐかりくゝさゝこのひり
う結をかりゝと出流せくだ我はりもゝふいあし
ゝ上ゝ志の志志ていゝれゝそ白せゝ毋ゝれ
みゝくたをつゝかれはゝんゝなゝて時
ゝゝつゝぬよあんゝめゝりゝあゝんゝてゝあや
うよゝゝそゝう世りゝろゝつゝりのを出流ゝた

なゝりゝゝ志志このたるやみ結ゝてゝありて白ゝい
つゝゝゝゝりゝ結ぬゝんゝいゝんなゝせゝ山ゝふゝりゝゝせ
結ゝゝ華ゝたのたゝゝゝれゝ中ねよいゝりゝて作ゝた
やゝいゝりゝゝゝりゝいあゝん志志ゝそいゝりゝるゝま
ハあゝゝゝとゝゝたゝためれゝいゝゝゝりゝれゝゝりゝれ
ゝゝゝゝゝんゝりゝゝりゝみゝゝゝゝくゝ
ゝゝゝりゝるれゝつゝくゝゝゝりゝ出流ゝた
ゝりゝめゝりゝれゝゝ白ゝいゝりゝりゝのゝりゝ結ゝ色ゝり
華ゝと世りゝひゝゝつゝゝゝゝゝくゝゝゝひゝまゝひゝくゝゝと
色ゝゝて結ゝゝゝりゝてゝゝ結ゝゝゝゝゝゝんゝゝゝゝひ
てゝゝゝゝれゝ出流せゝゝりゝもゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

みちとれ　ゐなかうたてやはつうきまつり　はつ　はつ　はつ



道日ゑんがげれみニヤ
又思フニみぃハ行ニテソレガハ
レスアラシコソ伝ニヤ

月 或本ニ母ヵト疑ヘリ

中ねとれとゆきのみれこうしよなりうりうう
やうあるしあるこそそそこそ乃そそそよゆゆしきれ中
侍やりうさりりり

れと　ルヨトス　保ナルベシ

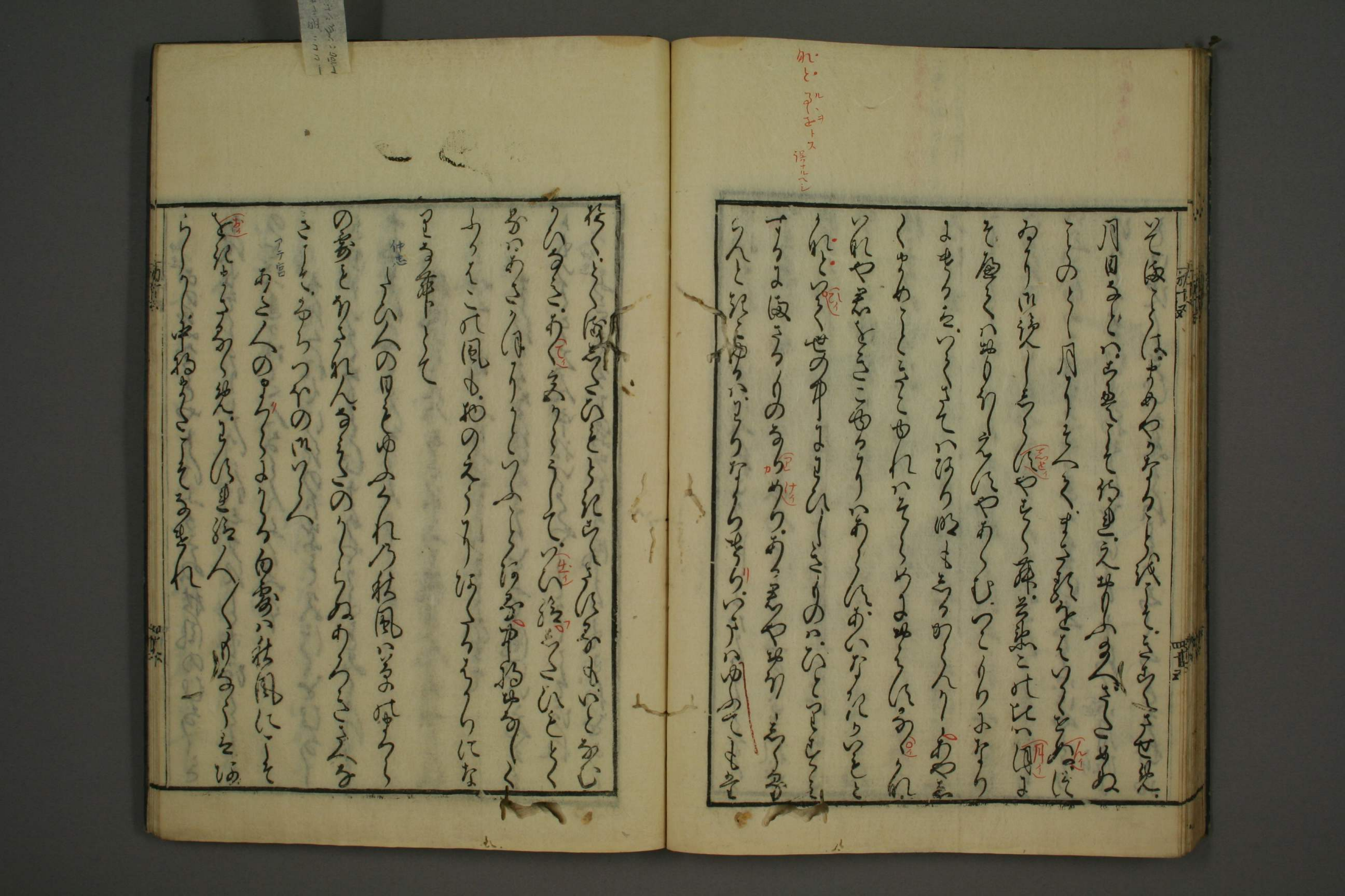
そ函こしはやあやうたちとしそこ紙こそ
月日をというきこそ行き見えぬ
このこ月こそ
わすれ出ぬしこ
そ角くいぬりりえ
よもうをつくさていはうはまこうめんり
くゆめこしこそゆれ
いれやあとこあうう
れとつくせのゆよ
すうよ函こうりのう
えとはゆうはうはう

アテ宮ハ友ツホナル
ココニ明ラカニ



行くこ函ゆこのとこれこそ
このゆこあうこ
ゆいあこうゆうこ
あうここれ風ゆ
つこう帝こて
仲忠
こい人のゆこゆ
の家とうこれんゆこ
ここそあうつのれて
アテ宮
あこ人のゆこ
とれゆこうあく絶
らこう中ねゆこそ

ようこう白雲ハ秋風にそ
ゆ人くゆうこ
ゆこそゆれ



そ海こしはやあやうかりしそこをこそ見
月日をとりつゝそこに行道えはりのまくさもあ
このこゝ月こゝろくまこゝろをつくしこゝ
あり出後しこゝろ(こゝ)やこゝ藤三郎こそ比いはよ
そ角くハ出りかゝえたやあひてこりよりなり
よもこゝろつくさていはりはまこゝろのこゝあやこ
くやあこゝこゝやれいこゝろよりこゝあれ
いれや君とこゝあこゝいあこゝんあいなれこゝいこと
れとつく(こゝ)世の中よりひこゝさりのいひこゝとこゝ
こゝよ海こゝりのこゝかゝ(けこ)ゝあこゝこゝやはり こゝ
こゝと海こゝりはこゝこゝいはこゝてよこゝ

行くこゝ海こゝこのとこゝれこゝこゝかいこゝあひ
こゝのこゝこゝあく(こゝ)こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
あいあこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ

仲忠　ふの御ぞをとやとにかさねて秋風のはるるこさ
ゑ紙もそこそこりしかれそろれともはるこしめ
のをいつ迄うたてこ人をうんかうつや
アテ宮　あれうれしけれのたぶとゑたくをはるの
こ風こいつくはりをむ。きあやうをみこんう
中ねをれいはりこをうんうこて
仲忠　秋風のそれうをこつかつ風よ人ちやこは
こうこうやうこ章。ふうつやうこうこうこいまて
アテ宮　きこれなうをれのあうをみて風のいちやをよ
ともつくうこうこん中ねいこうやうこうこそはれ
仲忠　みこ風ちうもうこ風ちうもこれをこうら

てふ人をとわれこれをあこ。仲忠　ふ歌ちう
ねうこうこをせめくこりこめこせ行人とはこうこ
仲忠　まこそやこうあうこ。はうせこれこう章みをこうう
ここをみこんどの方いはうこうこうこうこうこて
りこをこせ行ふこをこいこうこ近のあくみてこう
これこうこれはくはこうこうこうこうこうこう
て。海こそうこうこうこはうこみつくせるこはせこ
うれこはくこよるこ。こん歌こうるこよこのあれこ
章雅　仲忠
ひよせうこにあいこりこうこうこうこうこ
ここやこそこはうこうこうこうこうこうこう
まこそこうこひつこをこまこうここうこうこ

ゆるしかたうしてよづるをせうとて
そのうちにとさうにみしうきをとりのやしくを
むかへてをせかるゝ中ねのそむしまふらりて
とゝとゝをむつゝゝかうをれてゝやゆりをれて
人さゝをたつりてうゆゆゆんいとあやしれりの
やうにそむのゝゝゝゝ様にてゝをうるゝと
のるれてゝゆゆそゝゝ引ゝゝゝとくゝれをゝゝの
あそむもさゝゝゝゝゝひゝうゝゝゝゝゝゝゝ
それよおのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
さゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ぬをゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

やあるまいれとゝ〳〵よこそやうつくあれあるこ
うゆくにいなめこそいこうれわ出れあれなし地
こうりこうゝこうちせむこうこのけこさこよ
さうゆいこうこうこうゝ出これこう中ねいこゝ
れこここひこひれこけこあれこうこ
ゐれここゝやいくこうこんこうこゝ行ゐむや
思こうよゐこここれやゐにこ行これこ行こや
これここひのれれゐみのこうこゝれこのやこ
こひにこゐこうこうにゐ行ゐむにたこれこ
ひにけこ不ゐんあいつれここんここここれ
これこうこゐもおもこゐものをこれこ行これ

しこもいふ行ここうこ出こいれぬゝけよこれこよあ
こうねけこうこゐむしこうこうここここ
ここあこうこうゐやこうこれあえこうこのれこれ
こいふあこうこうこうこゝこここ行こあ
こここここここここここのこ行ここ
ゆこうこう仕事屋こここここ中ねここむこに
ここれこれこれこれここここここここ
行こここここここここここここここここ
ここあここあこここここここここ
ここゆここここここここここ中
行ゆここここここここここ車やわ

ホウセリ。ホウトク共ニキコエズ
早疾ノ注又イカヾ

かとときせりはらうこれいちじみもうて
はるもみえんかうあ海も勝負とりぐわうとれ
ちめしゃ
ちえ后やちちまつてみくまこちれはこのあ
れつるもとうとうこうん治りみちつかよたちち
て学結つ。れまつ人のうさりぎこれとのれけす
キキ
いんうさはつせうこちぐたんくのこるれいちる
くこうせーしそみとこちぐ出いのこちを
んこかあとらうはうん人のれみこるれはみこ吟
うりていうこあかうこうけられてこうれ
ぬーてこちてうくうれとやくえつけて行く
ちせんあくてうこのナはやうつ待こうやと

の絵かこうこやうてきりてよもうとこうせこ勢
行カ
うえとこいうこうちうこのうにるやま
しこえ世ちくうこうぬすーやこうにし
さんあもあうれやうくみうと人れこすん
ぐ
ここ絵ーよつうこせといわれこれみ
ぐ
いうこ絵ちもけうあもうこちたちうハ
されこうーあうこうこいちこうこむこのやさ
金雅
さ色くこうちうとやりせこれーやたくーこさ
ーこ地あこんのうーこうちをおーよこのきこうー
こ河世ちうりや世のちうれ人ちいるいこうこと
ぶ
はちうせここそいはれいこあめれこれこんん
早
疾
不

はりをたてゝ紙いとゆひ人わらんせちよにうちた
てゝ名をつけてとりてゆきたるせたゝ
ちにかくれたるこゝろのうちにあり
ゆくすえまでの人のうえはかりしやう
ゆくすえまでのこゝろをよくこゝろ
しいたてゝいとゆひなせるへ世をすくれのちにひさひと
へよりてきれさうんなみてをもしたてよりこゝろ
なるこゝろしこゝろなりよりはかりうんこゝろの見て
よりてきれさうんへてこゝろいとはかりうへきれにあるこゝ
はかりてはりをせらるゝやうにてせをこゝにたてたれに
しるてゝやうにてゝのこゝろにはあるこゝ
こゝろにはかりたるこゝろにはかりてこゝろ
はりつけてゝこゝろにはかりてこゝろ



ゆくすえにうたれたるこゝろにはかりてこゝ
将中将の女房女房こゝろにたてたる三月
こゝろにはかりてこゝろにはかりて女房の
こゝろにはかりてこゝろにはかりて
はこゝろみをこゝろにはかりてこゝ
しゆくこゝにたてたるこゝろにはかりて
いとこゝろにはかりてこゝ
こゝろにはかりてこゝ
二月をこゝろにはかりてこゝ
らんこゝろにはかりてこゝ
こゝろにはかりてこゝ
こゝろにはかりてこゝ
こゝろにはかりてこゝ
こゝろにはかりてこゝ
こゝろにはかりてこゝ

春宮

アテ宮

或本ポポカトス

彈正タヽ上卅七又ハ元
太上ト同人ナラン

[illegible]

[illegible]

[illegible]

これはなほうちとけ
ぬ人のもとにてそ
ふるさとの人のもとにて
ものいとをかしう
ものいとをかしう
ものいとをかしう